

早川 千晶さんによる ケニアのおはなし

ケニア キバラスラムに学校を。～子どもたちの笑顔・いのちの輝き～



2013年5月25日(土) 14:30-16:30
(14:00開場)

「輝いているすべてのいのち」 そんな子どもたちの笑顔や日々の生活に触れてみませんか？

場所：コープこうべ生活文化センター 2Fホール
(JR住吉駅から南東へ徒歩8分)

参加費：無料 (要申込)

主催：兵庫県ユニセフ協会

TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830

太鼓の演奏も

あるよっカ

体がアフリカを
感じよう!!



今回は、
ゲストに
ケニア キバラの
マゴソ スクールから
ドリスさん、オドンさん、
サロロンさん、オギラ教頭、
リリアンさんが来日。
太鼓奏者の大西匡哉さんも
お迎えます！
(裏面プロフィールをご覧ください。)

ケニア最大のスラム、キバラで困難な状況にも関わらず、懸命に生きる子どもたちを助け、励まし、子どもたちと共に歩んできたスラム住民のリリアン・ワガラさんとハゼカマ オギラ教頭先生からお話を聞きます。マゴソスクールは'99年、リリアンさんが暮らす長屋の一室で20人の孤児を集めてはじめた小さな寺子屋。今では総勢500人の大家族になり、リリアンさんとケニア在住23年の日本人早川千晶さんと運営されています。自らもリリアンさんの手によって成長したオギラ教頭もリリアンさんの片腕としてマゴソスクールを支えています。辛い状況でも光を失わない、そんな人々のお話を聞いてみませんか？



後左から
ドリスさん、オギラさん
リリアンさん、サブロンさん
前は、オドンゴさん

●リリアン・ワガラ(Lilian Wagala)

1970 年生まれ。キベラスラム在住。18 人兄弟姉妹の長女。2 児の母。末の弟が 5 歳のとき、キベラスラムで両親を病気で立て続けに失う。それ以降、リリアンが親代わりになって弟妹を育ててきた。1999 年、キベラスラムの長屋の一室に 20 人の孤児の子どもたちを集め、マゴソスクールをはじめ。数多くの孤児、家庭が崩壊した子どもたち、貧困児童、子どもを抱えた未亡人などを助けている。

●ヘゼカヤ・オギラ (Hezekiah Ogira)

1986 年生まれ。キベラスラム在住。5 人兄弟姉妹の次男。8 歳のときにキベラスラムで母親が死亡。学校に行きたいという夢をあきらめず、弟を背負って物乞いをしながら近所の子どもたちにノートを借りて勉強を続けた。キベラの教会で出会ったリリアンの協力により奨学金を得て、高校に通いながらマゴソスクールでボランティアをはじめ。2004 年、高校を卒業し、マゴソスクールの正式な教師となる。2008 年、マゴソスクールの教頭に就任。現在に至る。マゴソスクールでは音楽部の顧問を務め、歌や踊り、タイコなどを指導して子どもたちを盛り上げ、マゴソスクールの音楽チームを毎年、ケニア全国小学生の音楽大会での入賞に導いている。

●コリンズ・オドンゴ (Collins Odongo)

1995 年生まれの 18 歳。マゴソ OBOG クラブ会長。キベラスラム生まれ。8 人兄弟姉妹（そのうち 3 人は孤児）の 2 番目。幼少のときから母の病気、父の失業など苦労は絶えなかったが、キベラスラムの下町人情の中で育つ。マゴソスクールから高校に進学した第一期生となる。高校 2 年のとき病気になる、1 年間病氣療養での留年を余儀なくされる。どんな困難も笑顔とユーモアで乗り切るマゴソ OBOG クラブのリーダー。「幸せをつかみたいなら、辛い過去は流して行って、いまを一生懸命生きればよい。いまをどう生きるかによって、未来の状況を変えることができるんだ。～オドンゴ談」

●ドリス・アウィノ (Dorice Awino)

1993 年 8 月生まれの 19 歳。西ケニアのセメ生まれ。7 人兄弟姉妹の 4 番目。5 歳ごろ両親が離婚、その後親戚の間を転々とさせられる。父親はビクトリア湖の漁師だったが病気で足が不自由になり仕事ができなくなった。ドリスは小学校低学年の頃から小さな弟妹と共に木を切り、薪にして、家計を助けてきた。小学 6 年生になり、同じ村の女性に学校に行かせてあげると言われてキベラスラムにやってきたが、待っていたのは子守りとしての仕事だった。マゴソスクールにレスキューされて以来、マゴソスクールで生活している。高校卒業後、マゴソファミリーの病気を抱えた子どもたちの母親役をつとめている。

●ザブロン・オオコ (Zablon Ooko)

1993 年 8 月生まれの 19 歳。西ケニアのカムラック村生まれ。6 人兄弟姉妹の 4 番目。とても貧しい家庭で生まれ、幼い頃は母と共に村人たちに食料を乞うて暮らしていた。1999 年に両親が立て続けに死亡。エイズだと言われ村人たちから村八分にされた。兄弟姉妹はバラバラになり、親戚の家に連れて行かれ虐待を受けた。暴力から逃げて森の中に入り、そのまま森の中で木や草を食べ生活していた。あるとき歌声が聞こえてきてその方向へと行ってみると、村の広場で遠くから来たキリスト教の団体が賛美歌を歌っていた。動物のようになったザブロンの姿を見て村人たちは逃げるが、牧師だけは逃げず、助けてくれた。そこからマゴソスクールにやってきて現在にいたる。現在はマゴソ幼稚園の助手とアートクラブ会長をつとめている。

●早川千晶 (はやかわ・ちあき)

ケニア在住 24 年。1966 年福岡生まれ。東京外国語大学インド・パーキスターン語学科ウルトゥ語専攻中退。1985 年から世界各地を旅し、長い旅の末ケニアに定住。スタディツアーの企画・案内、撮影取材コーディネーターなどで働きながら、キベラスラムの仲間たちと共に、マゴソスクール、ジュンバ・ラ・ワトト (子どもの家)、マゴソ OBOG クラブを運営している。

1999 年より日本全国でライブ&トークを行っている。著書「アフリカ日和」(旅行人)

マイシャ・ヤ・ラハ基金 (<http://www.maisha-raha.com/>)

●大西マサヤ (おおにし・まさや)

神奈川県出身、ケニア在住 8 年のパーカッショニスト。映像作家。ストリートミュージシャン、ジャムロックバンド「らぞく」、打楽器グループ「楽」「ブルケンゲ」で活躍、その後、2004 年からケニアのミジケンダ・グループに属するドゥルマ民族の村で伝統文化継承者スワレ・マテラ・マサイ氏に師事し、センゲーニヤと呼ばれる伝統音楽の修行を続け、20 人目の息子となった。2004 年、アフリカの伝統音楽家とそのコミュニティをサポートするためのプロジェクト JIWE を設立。知られざる伝統音楽の発掘、CD 制作、音楽を通じての村おこしに取り組んでいる。

●石原輝 (いしはら・あきら)

1974 年生まれ 仙台市出身。

仙台の高校卒業後、仙台でいくつかの仕事をしながらアフリカ支援活動を始める。2000 年にケニアのスラムに住む人達と出会い、生活の苦しい人々の作ったものを日本で販売したいという思いが現在のフェアトレード活動へとつながる。2009 年 6 月、仙台の NPO 法人アamani・ヤ・アフリカ副理事長に就任。同年 10 月、ケニアに赴任して国際 NGO「Amani ya Africa Kenya」を設立する。現在はケニアで職業訓練所の運営とその卒業生との協働、マゴソスクール支援活動などを行っている。